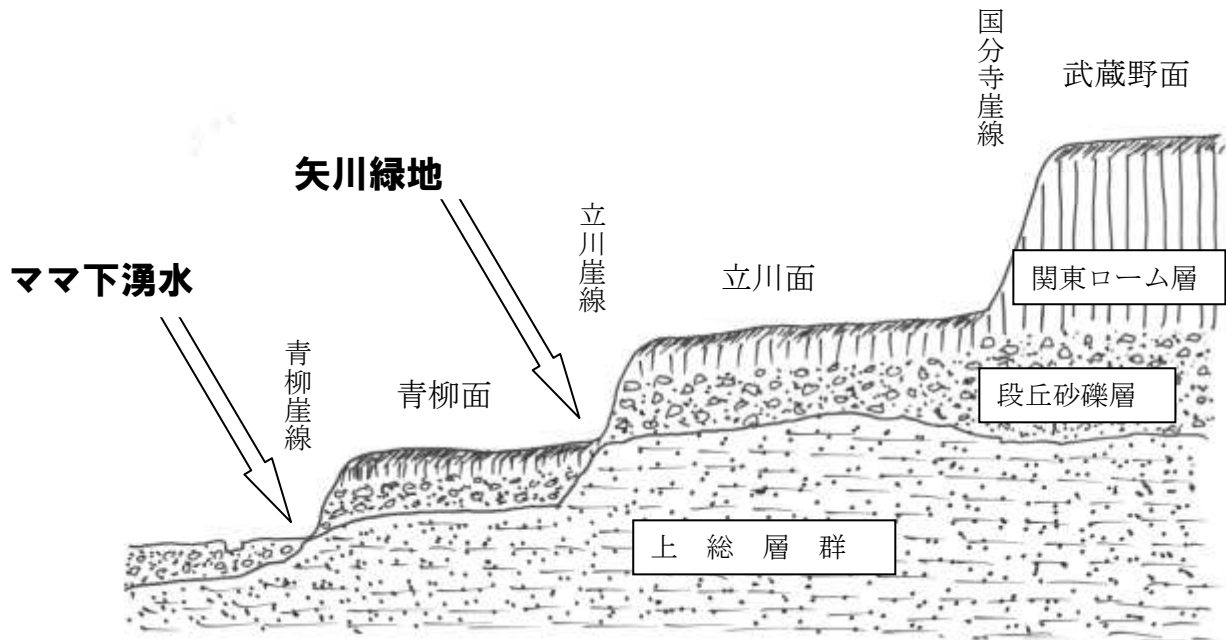


花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年1月29日 NO.82



モンタ博士「花ちゃん・オー君。この前のお話、少しはわかったかな。ちょっとむずかしかったかなとは思うけど、とっても大切なお話なんだよ。」

花ちゃん「むずかしかった所もあったけど、わかった所もあったわ。」

オー君「つまり、ぼくたちの住んでいる国立市は、大きく3つの階段（かいだん）のようになっているということだよね。そして、その階段を作ったのは、多摩川というですね。」

モンタ博士「そうだね。上の絵を見てもらうと分かるけど、関東ローム層の中からナイフのような石器や、おののような石器が見つかっているんだ。さらに、まるい礫（れき）のような打石器などもあって、富士山が噴火（ふんか）して、吹き出した火山灰（かざんばい）がふってくるような環境（かんきょう）の中でも、すでに人が住んでいたことがわかっているんだよ。」

花ちゃん「それって、そうとう昔（むかし）なんでしょうね。」

オー君「すごい昔から、ぼくたちのご先祖（せんぞ）様は、この国立に住んでたんだ。」

モンタ博士「そうだね。この時代の後に続く沖積世（ちゅうせきせい：ほぼ2万年くらい前）の時代になると、大きな変化があったんだけど、何だかわかるかな。」

花ちゃん 「まったくちんぷんかんぷんです。」

オー君 「おいらもまいったな。わかんないや。」

モンタ博士「この時代になると、大陸（たいりく）と地続きだった日本列島（れっとう）がはなれて、今とほぼ同じ形になったんだ。考古学（こうこがく）では新石器時代（しんせっきじだい）ともいうね。」

花ちゃん 「縄文（じょうもん）時代という言葉はどこかで聞いたことがありますか……。」

モンタ博士「よく知ってるね。日本では、新石器時代を縄文文化の時代ということもあるよ。武蔵野段丘や立川段丘の面は、縄文時代の人の生活の場だったんだ。」

オー君 「ところで、モンタ博士、国立市で一番始めに人が住みついた所はどこらへんなのですか。」

モンタ博士「とってもいい質問（しつもん）だね。それはね、谷保天満宮から南養寺（なんようじ）あたりにかけての青柳段丘と、もう一つは、立川段丘下の矢川あたりではないかと言われているんだ。」

花ちゃん 「どうして、そのあたりだとわかるのですか。モンタ博士。」

モンタ博士「それは、遺跡（いせき）といってね、大昔の人々が生活していた様子が今も残されているからなんだ。」

オー君 「生活していた様子？どうということだろう？」

モンタ博士「それはね、土器（どき）や石器がいくつも発見されて、大昔の人がそこに住んで生活していたしるしがはっきりと残っているからなんだよ。」

のところ
あたりに、大昔の人は
住んでいたんだね！

